

# 除染翌年のほ場だけでなく除染後保全管理したほ場でも ダイズ1作目は子実の放射性セシウム濃度が高い

福島県農業総合センター 作物園芸部 畑作科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質の吸収抑制技術等の確立

研究課題名 原発事故からの復興のための放射性物質対策に関する実証研究〔食料生産地域再生のための先端技術展開事業〕

担当者 木田義信、平山孝

## I 新技術の解説

### 1 要旨

除染後ほ場の営農再開でダイズの作付けを希望する農業者もいる。そこで、2016年の除染（表土剥ぎ後、客土）後、翌年に収穫されたダイズ子実と年1回のロータリー耕耘及び機械除草（保全管理）を2年継続した後のほ場で収穫されたダイズ子実の放射性セシウム濃度を測定した。

- (1) 除染翌年に作付けしたほ場（A）での子実への $^{137}\text{Cs}$ 移行係数は1作目が2作目より高かった。除染後2年間保全管理を継続してから作付けしたほ場（B）でも1作目の子実への $^{137}\text{Cs}$ 移行係数はほ場Aの1作目と同様に高かった（図1）。
- (2) 除染後2年間保全管理を継続してから作付けしたほ場（B）では土壌の交換性カリを50mg/100g目標に増施肥すれば、子実の $^{137}\text{Cs}$ 濃度は50 Bq/kgを超えず、吸収抑制効果が期待できる（図2）。

### 2 期待される効果

- (1) 除染後保全管理していたほ場で、ダイズを初めて作る場合の放射性セシウム対策の参考となる。

### 3 活用上の留意点

- (1) 表土剥ぎ客土除染した後、2年間保全管理したほ場の事例である。
- (2) ほ場の土壌 $^{137}\text{Cs}$ 濃度が1000～2600 Bq/kgの事例である。

## II 具体的データ等

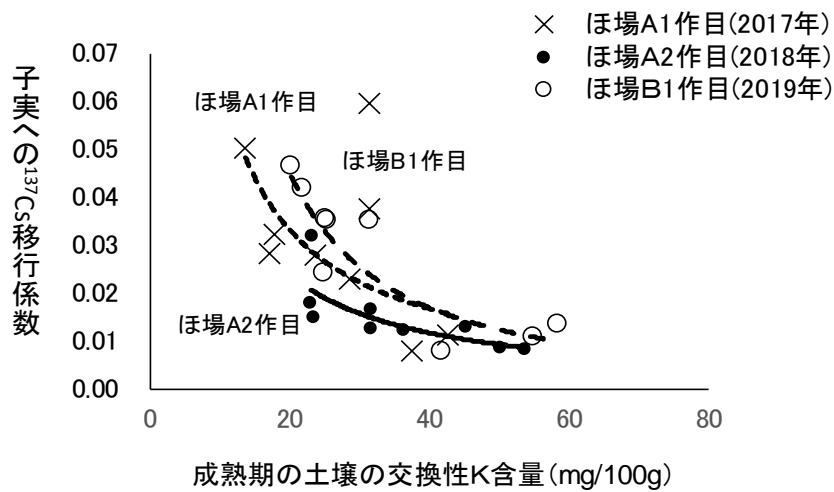


図1 ダイズ1作目ぼ場での土壌の交換性K含量と子実への移行係数

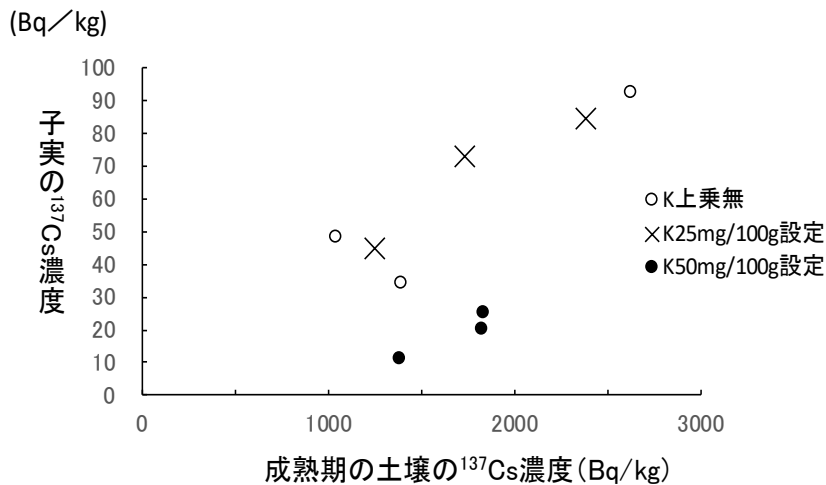


図2 除染後2年間安全管理していたぼ場でのダイズ1作目土壌<sup>137</sup>Cs濃度と子実の<sup>137</sup>Cs濃度  
注)ぼ場B、2019年

## III その他

### 1 執筆者

木田義信

### 2 実施期間

平成 29 年度～令和元年度

### 3 主な参考文献・資料

なし